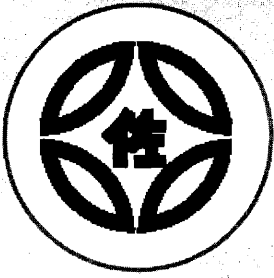


佐織縞発祥の地



■佐織町

S A O R I

愛知県の西端、名古屋市中心部から西へ15kmに位置し、木曽川の土砂堆積によってできた全国有数の海拔0メートル地帯にあり、肥沃な土壌と水に恵まれ農業が盛んです。農業環境の変化に伴い、都市近郊の立地優位性を活かした「都市近郊型農業」を進め、生産技術の向上、新しい農業社会の展開に努め「佐織ブランド」として新たな需要を拡大しています。

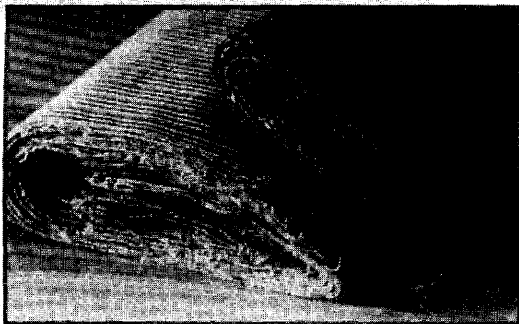
また、津島市を中核とする海部津島広域行政圏協議会の一員として13市町村とともに文化・都市機能を有する地域を目指し、

「ほっと good さおり」一心やすらぐまち 住みよいまち 佐織一

をキャッチフレーズに、将来構想として勝幡駅前広場整備事業、公共下水道建設事業など環境整備に努めています。

本町の町章は、佐織縞発祥の地にちなみ織機の「杼」(ひ)を図案化したものであり、現在も地場産業として毛織物が盛んに行われています。

本町は織田氏の礎の地としても知られ、旧上街道沿いには、当時の面影のある町並みも残っています。水害に悩まされたこの地域には、多数の神社・仏閣も残り、三角縁神獣鏡の出土で知られる奥津神社や、尾張六地蔵のひとつである釜地蔵のある釜地蔵寺など、愛知県の文化財に指定されている史跡も多く見られます。



佐織縞



相ノ川桜並木